

# 品目：かぼちゃ

環境こだわり農産物の基準(5割以下の基準)

化学合成農薬(延べ使用成分数) 4成分以下

化学肥料(窒素成分量) 8kg/10a以内

## 技術体系例 かぼちゃ

生育ステージ	作付前	播種	育苗		定植		生育期間中													
			3月	4~5月	5月	定植時	生育全般			生育初期(6月)		生育中期(7月)		生育後期(8月)						
防除時期	作付体系	播種時																		
防除方法・使用資材・薬剤名等	ほ場ローテーション	抵抗性品種の利用	床土の蒸気消毒	無病培土の利用	防虫ネット	購入苗の利用	殺虫剤	マルチ被覆	捕殺	病害株の引き抜き	不織布のべた掛け	殺虫剤	敷きわら	ほ場周辺の草刈	(ハーモメイト水和剤) 重曹	溝さらえ	殺菌剤	殺菌剤	微生物製剤	
立枯性病害	★		★	★		★				★										
べと病	★																●			
疫病	★							★	★			★				★				
うどんこ病	★	★													★(●)		●	●	★	
ウリハムシ				★		●*				★	●		★							
アブラムシ類				★			★			★	●									
タネバエ				★		●				★										
ネキリムシ類						●		★		★										
(例)使用農薬							ダイアジノン粒剤3					マラソン乳剤			重曹(ハーモメイト水溶剤)			ダコニール1000	トリフミン水和剤	ボトキラー水和剤
化学合成農薬成分数							1					1					1	1		

注) ●: 薬剤防除対象病害虫、★: 天然資材または耕種的手法

農薬の登録は随時変更があるので、農薬の使用にあたっては、必ず農薬ラベルを確認し適正に使用する。

\* 印のものは、登録の対象害虫等が限られているので登録を確認する。

ほ場周辺は除草剤を使用せず、草刈機による管理またはグランドカバープランツを植栽する。

## 病気 うどんこ病



発病初期のうどんこ病



発病後期のうどんこ病

### 発生しやすい時期

5月下旬頃～8月中旬頃

### 原因（発生要因）

- ・ 病気の出たほ場で被害のあった茎や葉からうつります。
- ・ 株もとの古い葉からうつりやすい病気です。
- ・ つめて植えたり、風通しが悪いと出やすくなります。
- ・ きゅうりやまくわうりなどのうり科野菜が近くにあると、うつります。

### 対策（減農薬技術）

- ・ 苗は購入するか、抵抗性品種を利用します。
- ・ 発病したほ場での連作を避けます。
- ・ 重曹や微生物農薬を利用します。
- ・ 病気にかかるまでに予防散布します。
- ・ 葉裏まで薬剤がかかるようたっぷり、丁寧に散布します。
- ・ まわりにきゅうりなどのうり科野菜を植えないようにします。

病気 **疫病** (えきびょう)



疫病にかかったかぼちゃ



疫病にかかった果実

発生しやすい時期

6月下旬頃～8月中旬頃

原因（発生要因）

- ・ 病気の出たほ場で被害のあった茎や葉からうつります。
- ・ 排水の悪い畑や降雨が続くと出やすくなります。

対策（減農薬技術）

- ・ 発病したほ場での連作を避けます。
- ・ マルチや敷きわらによりつるや果実への泥はねを防ぎ、被害の拡大を防ぎます。
- ・ 病気にかかるまでに予防散布します。
- ・ 畑の溝さらえなど排水をよくします。

害虫 **ウリハムシ**

発生しやすい時期

5月頃～7月中旬頃

原因（発生要因）

- ・成虫が飛んできて葉を食べます。



ウリハムシの成虫

対策（減農薬技術）

- ・定植直後は、不織布などで被覆します。
- ・定植するときに、粒剤を使います。

害虫 **タネバエ**

発生しやすい時期

5月頃～7月頃

原因（発生要因）

- ・土の中に居る幼虫が苗を食べます。
- ・未熟なたい肥を入れると発生しやすくなります。

対策（減農薬技術）

- ・十分に発酵、乾燥していないたい肥は入れないようにします。
- ・ほ場の排水をよくします。